

深沢まちづくりニュース

発行：鎌倉市都市政策課

第7号

平成 16 年 7 月発行



Topics

- 平成 16 年 5 月中旬に、深沢まちづくり協議会より「深沢地域の新しいまちづくり基本計画〔検証案〕」（以下「基本計画」という。）が市長へ提言されました。また、この提言にあたり、協議会から意見が付記（P5 参照）されました。
- 今後は、庁内及び関係機関と調整し、提言された基本計画を行政計画に位置付ける取り組みを進めてまいります。
- 市長への基本計画の提言をもって、「深沢まちづくり協議会」は、その役割を終えたことから、これまでの「深沢まちづくり協議会ニュース」は「深沢まちづくりニュース」へ移行します。



「深沢まちづくり協議会」を代表して日端会長（右）から石渡市長（左）へ「基本計画」を提言

基本計画〔検証案〕が市長に提言されました！

主な内容

提言式では、深沢まちづくり協議会を代表して日端会長から市長へ「深沢地域の新しいまちづくり基本計画」の提言が行われるとともに、各委員からもコメントを發表して頂きました。次頁以降に、基本計画〔検証案〕の確定までの経緯と“提言式の内容”を紹介します。

- 日時：平成 16 年 5 月 14 日（金）
午後 4 時 30 分から 5 時
- 場所：市役所 本庁舎 2 階 全員協議会室
- 出席者：委員 16 名

基本計画〔検証案〕の確定

市長への提言

- ・ 付記された意見
- ・ 協議会委員からのコメント



提言式の様子

基本計画「検証案」の確定

昨年 10 月から「深沢まちづくり協議会」では、平成 8 年 12 月に策定された「深沢地域の新しいまちづくりの基本計画（案）」（以下「基本計画（案）」という。）を踏まえつつ、策定後の社会経済環境の変化への対応やまちづくりの実現性の観点から、計画の前提条件や内容等を検証し、見直しや必要となる修正を行ってきました。

3 月 26 日に開催された第 6 回深沢まちづくり協議会以後に委員から頂いた意見等を受け、日端会長、石井副会長との最終調整を行い、「まちづくりの基本理念」及び「まちづくりの目標」等を再整理しました。

その結果、10 項目あった「まちづくりの目標」を 5 つにまとめ、より方向性を明確にしました。

このことにより、「深沢地域の新しいまちづくり基本計画[検証案]」が確定し、「深沢まちづくり協議会」の検証作業が完了しました。



「深沢地域の新しいまちづくり
基本計画[検証案]」

■ 第6回の協議会以降に頂いた意見

- ① 第3次鎌倉市総合計画において、深沢は第三の拠点として位置づけられており、他と違った個性を持つまちづくりが行われ、地域の自律性や個性が目立つように施策されるべきである。
- ② 10項目の「まちづくりの目標」が示されており、どの項目も大事だと思うが、特に「深沢文化」という文言に着目したい。
- ③ まちづくりとは、そこに住む人々の生活感やライフスタイルによって作り出される文化活動を支える諸条件の整備であると考ええる。
- ④ 「深沢文化」をまちづくりの目標の第一に掲げ、他の全ての項目をその一点に集中し、「深沢文化を醸成し、未来に発信できる“まち”をつくり出す」という目標文言にしてはどうか。
- ⑤ 目標は②と⑥がメインテーマ。③と④は「深沢文化」、⑤と⑨は関連があることから、全体を再整理できるのではないか。
- ⑥ 第2章の「まちづくりの基本理念」の詳述の中に「緑と水」があるが、これは市全体のテーマであり、「新しい都市の創造」にならないと思う。
- ⑦ 10項目は、鎌倉でなくても不可欠な事項ばかりなので、この基本計画では、一番目に「深沢文化」を抽出する必要がある。

(旧)基本計画〔たたき台〕/第6回協議会時点

—— 1. まちづくりの基本理念 ——

- ◆ それは、深沢の歴史と文化を土壌として、暮らしのなかに緑と水を生かし育てることからはじまる。(新しい都市の創造)
- ◆ それは、住まいと暮らしをまちづくりの原点として、健やかなライフスタイルを育てることからはじまる。(新しい思想の実践)
- ◆ それは、市民が自らの暮らし方に責任をもち、自らまちづくりを考え、自ら行動することからはじまる。(新しい手法の展開)
- ◆ それは、行政が主役の「タテ型」のまちづくりから、市民、NPO、事業者、民間企業、行政等の能動的な参加と責任ある協働による「ヨコ型」のまちづくりからはじまる。(新しい手法の展開)

—— 2. まちづくりの目標 ——

- ① 緑と水を都市の骨格にする
- ② 地域の歴史と文化をもとに未来に発信できる新しい都市を築く
- ③ 住まいと暮らしを計画の中枢にすえる
- ④ 助けあい、支えあえる暮らしのしくみを築く
- ⑤ 21世紀にふさわしい都市型産業をおこす
- ⑥ 深沢文化を醸成し、世界と交流する
- ⑦ 災害や犯罪に強い、安全で安心な都市をめざす
- ⑧ 環境への負荷の少ないまち、循環型のまちを創る
- ⑨ IT化まちづくりをめざす
- ⑩ まちをプロデュースする

(新) 基本計画〔検証案〕

—— 1. まちづくりの基本理念 ——

- ◆ それは、深沢の歴史と文化を土壌として、花・風・空・富士・光・四季の薫りや人々の弾む声があふれた、そんな暮らしと自然が互いに響きあう都市をつくることから始まる。
- ◆ それは、住まいと暮らしをまちづくりの原点として、快適に住まい、働き、学び、助けあう、そんな健やかで多様なライフスタイルを育む環境をつくることから始まる。
- ◆ それは、市民が自らの暮らし方に責任をもち、自らまちづくりを考え、自ら行動することからはじまる。また、それは、行政主導型のまちづくりから、市民、NPO、事業者（民間企業、商業者、農業者等）、行政等の能動的な参加と責任ある協働によるまちづくりからはじまる。

—— 2. まちづくりの目標 ——

- ① 深沢地域の歴史と文化のもと、未来へ向けて発信する新しい拠点づくり
- ② 住まいと暮らしを計画の中心にすえ、助けあい、支えあえる暮らしのしくみを築く
- ③ 災害や犯罪に強い、安全で安心な都市をめざすとともに、緑と水を都市の骨格とした循環型のまちを創る
- ④ 21世紀にふさわしい都市型産業の発展とIT化まちづくりをめざす
- ⑤ まちをプロデュースする

市長への提言

去る5月14日（金）に日端会長より「深沢まちづくり協議会」で検討した成果である「基本計画」が石渡市長へ提言されました。

また提言にあたり、協議会から「事業化に向けた取り組みについて」、「JR 東日本との連携について」、「市民参加について」の3つの意見が付記されました。その意見の概要は、次のとおりです。



日端会長による報告

付記された意見の概要

■事業化に向けた取り組みについて

「基本計画」を実現させるためには今後の進め方が極めて重要となる。できるだけ早期に事業戦略を確立し、事業化に向けた取り組みを図り、鎌倉の第三の拠点形成として深沢地域のまちづくりが実現されることを希望する。

■JR東日本との連携について

市が取得を進めている旧国鉄清算事業団用地やJR鎌倉総合車両所、JR東日本社宅等を含む「面整備ゾーン」（約30ha）は、深沢地域の拠点づくりを行う上で先導性が求められる。

特に、JR東日本用地は、拠点づくりや市有地を効率的に活かす上でも非常に重要な土地であり、また、JR総合車両所については、平成17年度末以降に工場機能の廃止を視野に入れて検討がされていると聞いている。

こうした動きに対応できるよう、JR東日本とは、これまで以上にまちづくりの連携を図ることを期待する。

■市民参加について

今後、「基本計画」の推進に当たっては、具体的な取り組み内容などを市民に向けて情報公開し、必要において参加を図れるように積極的に取り組まれることを希望する。

■ 協議会委員からのコメント

提言式において、協議会委員からこれまでの取り組みや今後の市の取り組みなどに関して意見がありました。

主な意見を以下に紹介します。

- 今回まとめた「基本計画」は、非常に現実的で大事なことに絞った計画になったと思う。
- まちの整備・再生というのは、周辺地域の景観などちょっとした工夫によってまちのロケーションが変わるという事があると思う。したがって、出来る事から、来年度の事業の中で取り組んで頂ければ、と思う。
- 協議会は、6回と回数は長くはなかったが、内容としては、かなり突っ込んだ検討ができたのではないと思う。この協議会はこの計画の提出で区切りとなるが、今後、この「基本計画」がどのように実施され、どういう形で展開されるのか非常に関心がある。実現に向けた取り組みを期待し、また、これからも見させて頂きたい。
- J R大船工場用地及びその周辺が、とにかく立派な深沢地区の中心地のまちになるように願っている。
- 「基本計画」で例示している3案のうちB案は公園の影が薄いので、原っぱはぎりぎりまで残して欲しいと思う。
- 今後、J Rとの交渉の中では、鎌倉市として主導的な立場で具体的な計画があることをぶつけ、市民本位の立場に立った計画を実現して欲しい。
- 少しでも鎌倉に市民を増やす方向で、地域の活性化、鎌倉市の活性化のためにあの土地を活用して欲しい。
- 道路の整備から進めて欲しい。
- 短期間でまとめられた市の事務局の方々は素晴らしいと感心した。J Rの社宅は既に空いているため、一日も早く整備をして頂きたい。鎌倉市にとっては残された貴重な平らな土地であるため、鎌倉市の発展のために活用してほしい。
- この協議会を振り返ると、共通の意見として、市民にとって必要な施設に関することと同時に深沢らしさが大事であるということがあった。J R大船工場用地は企業の土地であるため、現代的なものが入って来ざるを得ないと思うが、その中に歴史や自然条件といった過去と繋がるものをうまく埋め込んでいく事が深沢らしさの一つの大きな要素になるのではないと思う。
- この土地は、何か新しい鎌倉のアイデンティティ、深沢らしさ、プラス鎌倉らしさを生み出す可能性を持っていると思う。
- 今後整備計画の中では、地主の人の意見も出してもらいながら進める事が必要だと思う。
- 情報公開や事業に関する市民参加に積極的に取り組んで頂く必要があるのではないと思う。

計画策定までの流れ

平成
15
年

- 第1回（10月24日）**
- 協議会委員の委嘱
 - 協議会会長、副会長の選出
 - 協議会の運営について
 - 基本計画（案）のレビュー
 - 今後の進め方

- 第2回（11月25日）**
- 基本計画（案）の検証
 - まちづくりコンセプトの検討

- 第3回（12月25日）**
- 市街地整備の方針の検討
 - ・土地利用の整備方針
 - ・交通の整備方針
 - ・緑と水、景観の整備方針

アンケート調査

※市民の方々（無作為抽出）を対象に実施予定。

- 第4回（1月30日）**
- 市街地整備方針の再検討
 - 導入機能の整備方針
 - ・導入機能の方針
 - ・中心ゾーンの方針
 - 情報化社会への対応

- 第5回（2月）**
- 導入機能の再検討
 - まちづくりの進め方の検討
 - 基本計画〔検証案〕のまとめ

まちづくりの集い ※市民の方々を対象に開催予定。

- 第6回（3月）**
- 基本計画〔検証案〕の確定

深沢地域の新しいまちづくり基本計画

※現在、協議会から市長へ提言して頂いた基本計画〔検証案〕を行政計画とするための取り組みを行っております。

今後も、皆様に情報を発信していきたいと考えておりますので、地域並びに市のより良き将来に向けて、皆様のご理解ご協力をお願い致します。

計画についての問い合わせ先：

鎌倉市 企画部 都市政策課

〒248-8686 鎌倉市御成町18番10号

TEL：0467-23-3000（内線2566） FAX：0467-23-8700

E-mail：kyoten@city.kamakura.kanagawa.jp

http://www.city.kamakura.kanagawa.jp/kyoten/index.htm